

559 In-111 標識マウス MoAb (96.5及びZME018)

によるヒトのメラノーマのイメージングについて
 小山田日吉丸, 照井頌二, 福喜多博義 (国立がんセンター, RI)
 われわれはまず抗体 96.5 について, 京都大学及び北里
 大学との協同研究の形でヒトのメラノーマのイメージン
 グ (In-111 標識) に関する治験を行った。その後は ZME
 018 について更に金沢大学, 熊本大学など 6 施設が加わ
 って治験を行い, この度一応終了したので, 今回は国立
 がんセンターでの症例をとりまとめて報告する。

In-111 で標識された両抗体の体内挙動は, 尿中排泄
 率, 血中クリアランス, 及び体内残留率等のデータでみ
 る限り微妙な差はあるものの, シンチグラム上には特に
 際立った差は認められなかった。病巣の検出能はいずれ
 も Ga-67-citrate とほぼ同等であった。代表的な症例
 を呈示する。

560 イムノシンチグラフィ (IMACIS-1) の
臨床的検討

高橋利明¹, 辻野大二郎¹, 加藤義郎¹, 和田祐爾¹, 大原裕康¹
 染谷一彦¹, 板垣勝義², 高橋考子², 今西好正³, 石川 徹³
 榊 徳市⁴, 佐々木康人⁵, (聖医大第 3 内科¹ 同放射線
 部核医学² 同放射線科³ 駒沢短大放射線科⁴ 群馬大学核
 医学科⁵)

IMACIS-1 を用いたイムノシンチグラフィの臨床
 検討を報告する。対象は 35 例である。原発巣 32 例中 18
 例 (56.3%), 転移巣 28 例中 20 例 (71.4%), 消化器
 系癌 22 例中 17 例 (77.3%), 非消化器系癌 13 例中 4 例
 (30.8%) で病巣部への異常集積像が得られた。IMA-
 CIS-1 と他の画像診断との比較, 腫瘍 size と検出
 率の関連, またサブトラクションや SPECT などの有用
 性も検討し報告する。

561 I-131 抗 CA125 モノクローナル抗体を用
いた免疫シンチグラフィの検討

和田祐爾¹, 長島 学², 高橋利明³, 板垣勝義³, 榊 徳市⁴,
 岩田正範², 斉藤 馨², 辻野大二郎¹, 佐々木康人⁵,
 染谷一彦¹ (聖医大第 3 内科¹ 同産婦人科² 同放射線部
 核医学³ 駒沢短大放射線科⁴ 群馬大学核医学科⁵)

我々は IRIST より提供された I-131 抗 CA125
 モノクローナル抗体を用いた免疫シンチグラフィを行な
 う機会を得たので, 卵巣癌患者に対する有用性を検討し
 た。I-131 抗 CA125 F(ab')₂ 3.0 mCi を生食
 100ml に溶解し点滴静注した。3 日目に全身前面シンチ
 グラフィとスポット像, 5 日目にスポット像を撮影した。
 対象は胎児性癌Ⅳ期, 漿液性嚢胞癌Ⅲ期, 類中腎癌Ⅲ期
 の 3 症例で明らかな異常集積像が認められた。なお全症
 例とも抗体投与による副作用は認められなかった。